

(5) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

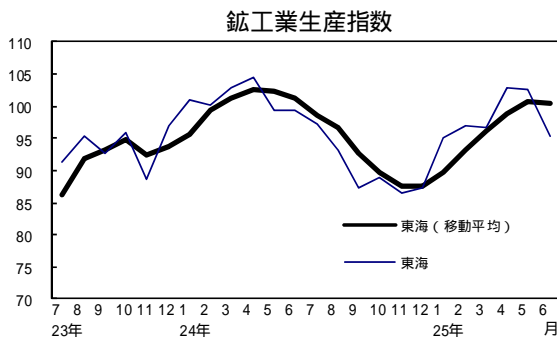
前回調査からの主要変更点

	前回(平成25年5月)	今回(平成25年8月)	
景況判断	持ち直し	緩やかに回復しつつある	
鉱工業生産	持ち直し	緩やかに増加	
個人消費	持ち直し	緩やかに増加	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	改善	着実に改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

輸送機械は、自動車国内向けや北米向けが堅調に推移したこと等から増加した。一般機械は、主力の金属工作機械で、北米やアジア向けに動きがあったことから増加した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向けの生産が堅調だったこと等から増加した。プラスチック製品は、自動車生産が高水準で推移したこと等を受けて、自動車向け製品が増加した。化学は、主力の医薬品の減少等が寄与して減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1~3 月期	4~6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	37.5	17.5	6.5	16.3	5.1	11.4
一般機械	12.7	0.5	5.9	5.0	6.2	7.7
電子部品・デバイス	6.8	2.1	14.0	15.8	1.1	8.2
プラスチック製品	5.4	5.2	3.2	4.0	1.8	5.4
化学	5.0	7.3	1.9	6.5	4.9	1.7
鉱工業	100.0	9.9	4.3	6.6	0.3	7.1

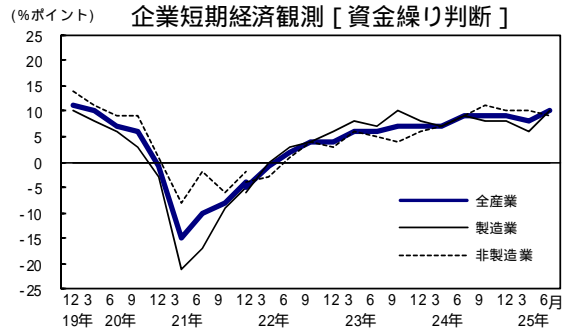
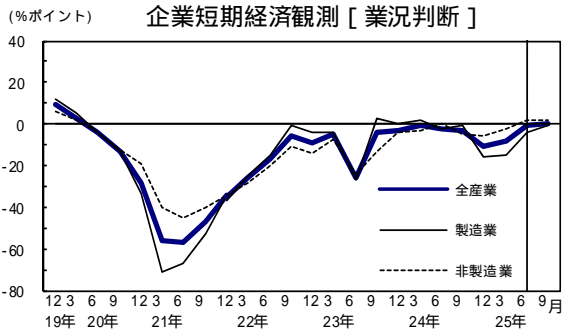
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 太線は後方3か月移動平均。

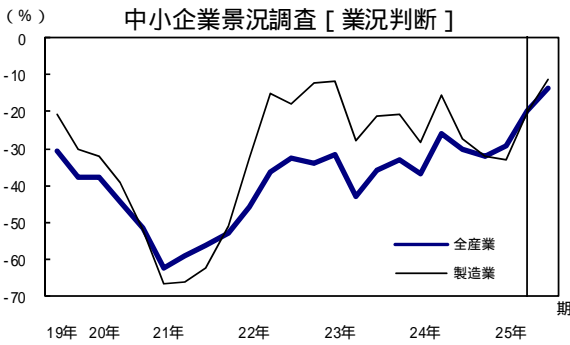
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

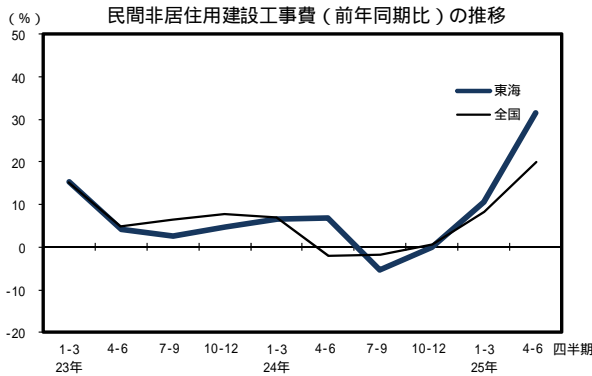
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「取引先の自動車部品メーカーの稼働率が引き続き上昇している(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	11.8(17.2)	7.9(3.5)
製造業	12.7(21.3)	14.3(0.8)
非製造業	11.0(13.6)	2.4(6.0)

(備考) 1.()は前回(3月)調査比修正率。

2. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.1%増、5月は同0.8%増、6月は同0.4%減となった。

大型小売店販売額

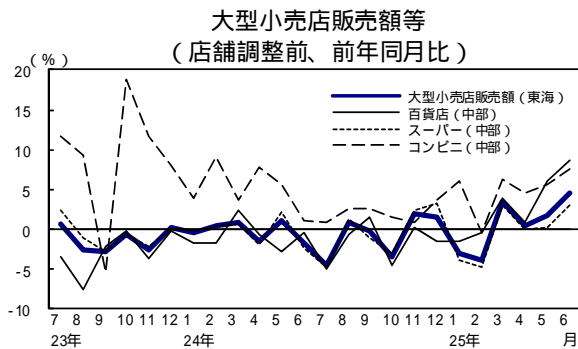
百貨店は、4月は、高額商品が引き続き好調であったことや店舗改装効果等から前年を上回った。5月は、高額商品が引き続き好調であったことや気温の上昇から夏物衣料品に動きがみられたこと等から前年を上回った。6月は、高額商品が引き続き好調であったことや夏のセール開始日の前倒し等により夏物衣料品に動きがみられたこと等から前年を上回った。

スーパーは、気温が高く推移し、夏物衣料品等に動きがみられたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、50.5となり前月より2.0ポイント上昇した。

「ボーナス商戦は前年と比べて好調で、宝飾時計、海外特選ブランドといった高額商品の需要は引き続き高く、衣料品も特価品よりも正価品の方が好調に推移している (百貨店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

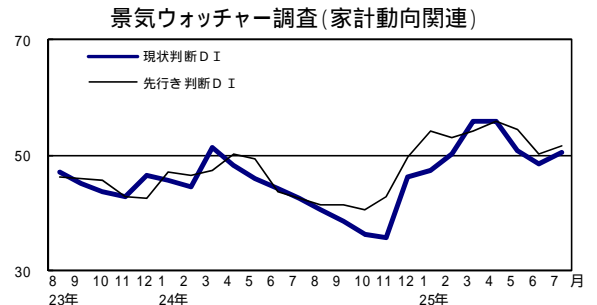
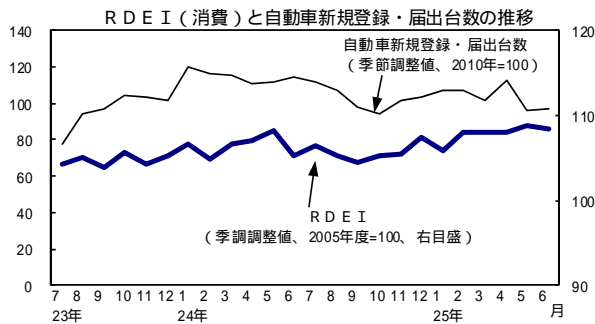


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.1	0.1	0.8	0.4
大型小売店 (*2)	2.3	0.5	1.8	4.5
百貨店 (*2)	5.1	0.8	6.0	8.6
スーパー (*2)	1.2	0.1	0.2	3.1
コンビニ (*2)	5.9	4.6	5.6	7.6
乗用車 (*3)	9.4	2.6	9.2	17.5
(季節調整値) (*3)	3.1	11.1	14.6	0.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%) 4 - 6月、6月は速報値。百貨店、スーパー、コンビニは、中部。

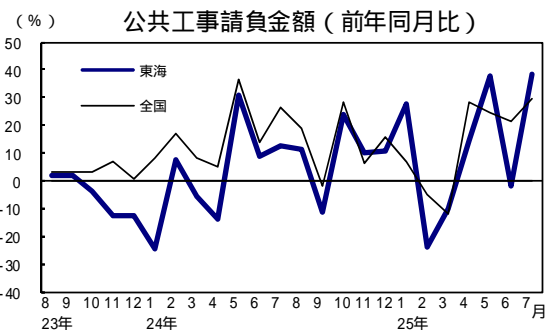
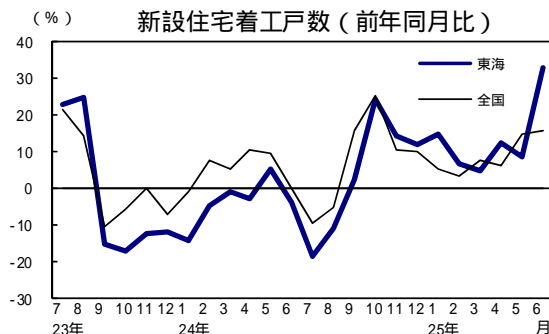
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

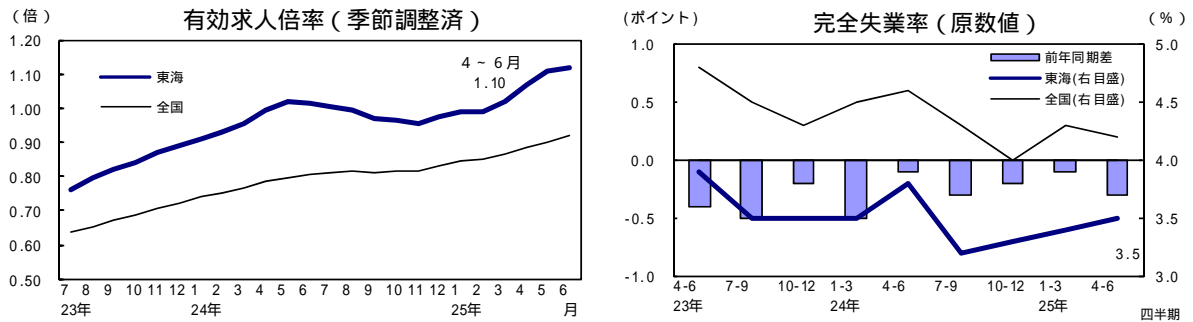


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

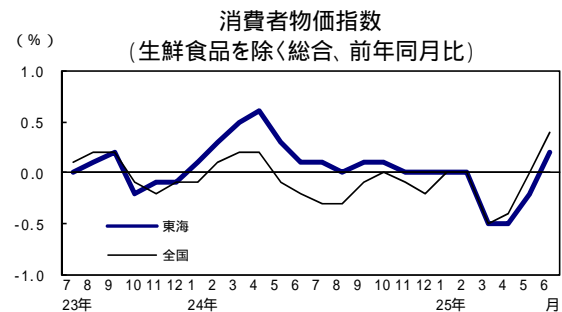
「自動車産業では上向き傾向にあるが、求人募集を全国的に行っても問い合わせが少なく、雇用に至らない (アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	371	310	336	369	148
(前年比)	19.7	9.6	6.9	3.7	22.3
負債総額	551	541	780	665	280
(前年比)	5.8	46.2	14.8	17.4	66.7



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月は非常に暑い日もあり、大相撲や野球観戦等の客も多かった。期間途中から雨が多く不安定な天気が多かったため、タクシー利用が多くなっている (タクシー運転手)

<先行き>

・資金繰りに余裕のある法人が増え、福利厚生に目を向けられるようになってきている。退職金共済を増額したり、法人契約の保険を検討したりできるようになっている (会計事務所)

